

子供の眼 (1956)

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 日本

色彩 B&W

初公開日 1956/01/15

【解説】

佐多稲子の同名小説を松山善三が脚色し川頭義郎が監督した。高峰秀子と高峰三枝子が共演。

小学三年生の三田村修は父と都営住宅で暮らしていた。母はすでに他界しており、父の俊二は歯科医の幸子と再婚する。しかし幸子は父親が中風で倒れてしまったため、実家の歯科医院を手伝うことになり、修の世話は俊二の妹である喜世子が見ることに。しかし喜世子は見合いをして縁談話が進み、俊二は名古屋への転勤が決まった。しかし幸子は一緒に名古屋へ行くことができないため、仕方なく俊二は単身赴任となった。やがて俊二は、自分と息子のために幸子と別れようと決意するのだが…。

【クレジット】

監督 川頭義郎

製作 小倉武志

原作 佐多稲子

脚本 松山善三

撮影 楠田浩之

美術 平高主計

音楽 木下忠司

出演 高峰秀子

高峰三枝子

芥川比呂志

設楽幸嗣

大木実

笠智衆